

日本外交文書

昭和
第二期
第四卷 I

外
務
省

序

外務省では、明治維新以降のわが国外交の経緯を明らかにし、あわせて外交交渉上の先例ともなる基本的史料を提供する目的で、昭和十一年『日本外交文書』第一巻を公刊した。その後、戦争による中断はあったが、戦後、編纂事業を再開して、昭和三八年には明治期を、同六二年には大正期をそれぞれ完結し、これまでに特集も含め計一六四冊を公刊した。

昭和期外交文書については、すでに特集として満州事変及び海軍軍縮関係史料を公刊しているが、昭和期は戦災等により重要記録が多数失なわれているので、従来の編纂方式を継続するのが困難となっている。そこで前記特集編纂の経験をも活かし、多年度方式を導入するなど若干の新形式を加え、複雑多岐にわたる昭和期外交の実態を把握できるよう配慮した。

激動の時代といわれる昭和期日本の対外政策とこれをめぐる国際環境について本書が正確な史実を提供し、将来のわが国外交政策の策定と歴史的研究にあたって、何らかの寄与をなし得れば幸いである。

昭和六三年三月

外務省外交史料館長

例 言

一 第二次世界大戦終結に至るまでの昭和期(昭和二―二〇年)の外交文書編纂は左の方式による。

1 昭和期の時期区分を次の三期とする。

昭和期Ⅰ 昭和二―六年(一九二七―三二)

昭和期Ⅱ 昭和六―一二年(一九三一―三七)

昭和期Ⅲ 昭和一二―二〇年(一九三七―四五)

2 昭和期の外務省所蔵記録は戦災等により多数焼失しているが、比較的採録可能な文書の多い対中国関係事項は、原則として各年毎にまとめた従来の編年方式を踏襲し、これを第一部とする。

他方、重要な外交記録の多くが失なわれている対欧米関係事項は、数年間を一まとめにした多年度方式を採用し、これを第二部として編纂・刊行する。

二 本巻は、『日本外交文書』昭和期Ⅰ第二部第四巻として、昭和二年から六年までの欧米諸国(ソ連を除く)と日本との関係にかかわる文書を収録した。(なお、日ソ関係文書については、昭和期Ⅰ第二部第三巻において収録した。)

1 本巻に収録した文書は、原則として外務省所蔵記録によるもので、原文書の改変、削除、簡略化等を行われていない。ただし明らかな誤字は訂正し、漢字はなるべく常用漢字を使用した。

2 収録文書は、編者が一連文書番号及び件名を付し、各事項ごとに日付順に配列した。

3 収録文書の冒頭に※印のあるものは、「松本記録」に依拠した。

「松本記録」とは、故松本忠雄元衆議院議員が、昭和十二年六月より一四年一月までの外務政務

次官時代、外務省保管記録のうち、特に政治、外交、条約、借款関係等の主要記録を筆写したもので、明治・大正・昭和にわたる約三〇〇冊に及ぶものである。「松本記録」は、昭和一七年の外務省の火災、または終戦時の焼却処分等によって消失した「原本記録」を補填しうる記録(写)である。

4 収録文書中発電月日不明の電報は、着電の日付を記し、1月(15)日のようにカッコを付して區別した。

5 収録文書中右肩に付した(1)(2)(3)等の記号は、同一番号の電報が分割されて発電されたことを示す。

なお、本巻への収録にあたっては、文章の区切りではなくとも分割された箇所をもって改行した。

6 収録文書の発受信者名については、初出の場合のみ姓名を表示し、以後は姓のみにとどめた。

7 注記については、原文書にある場合は(原注)とし、編者が加えたものは(編注)として当該箇所

に明記し、その文面はいずれも各文書の末尾に記載した。

8 原文書に欄外記入や付箋がある場合は、(欄外記入)(付箋)として当該箇所に明記し、その文面は各文書の末尾に記載した。

9 収録文書中(省略)(ママ)等のカッコを付したルビは、編者が記したものである。

10 巻末に全収録文書の日付索引を付した。

目次

一 日英・日米外交関係	一
付 日加公使交換関係	二四
二 移民問題	三九
1 移民政策一般(一般、アマゾン開発関係、国際移民会議関係)	三九
2 米国移民法修正問題	一四
3 日加ルミュー協定改訂問題	一八九
4 ペルー、ブラジル移民保護問題(ペルー関係、ブラジル関係)	二四四
付 拓務省設置問題	二七三
三 通商問題	三一五
1 一般通商問題	三一五
2 米国関税法改正問題	三五四
3 日印綿布関税問題	三九五

四 人物・文化交流

1	太平洋問題調査会関係	四三四
2	視察団訪日関係	四九八
(1)	米国新聞記者訪日関係	四九八
(2)	加実業家訪日関係	五〇六
(3)	英国経済使節団訪日関係	五二三
3	日米文化交流関係	五三八
(1)	人形使節交換関係	五三八
(2)	帝都復興興答礼使関係	五五七
(3)	野球団訪日関係	五六六
4	その他(英国美術家東京展関係、ローマ日本画展関係、パリ薩摩会館建設関係)	五七一

日本外交文書 昭和期Ⅰ第二部第四卷 日付索引

一 日英・日米外交関係

1 昭和2年3月5日

出淵(勝次)外務次官
在本邦英国大使館
ピーターソン一等書記官 会談

最近の日英関係並びに中国問題等に関する出淵

次官とピーターソン在本邦英国大使館書記官と

の会談

※ 日英関係ニ関シ出淵次官ト英国大使館一等書記官

「ピーターソン」ト会談ノ件

「ピ」氏ハ「バルフォア」卿ノ秘書トシテ現駐支公使「ラ
ンプソン」ト共ニ華盛頓會議ノ際日本全権側ト知り合トナ
リ最近二年間東京ニ在勤シ英国大使館ニ於テハ日本語記
官ヲ除ク外最古参者ナルカ今回帰朝ヲ命セラレ他ニ転勤ス
ルコトトナリ予テヨリノ約束ニヨリ腹藏ナキ感想ヲ聴クノ
目的ヲ以テ三月五日特ニ出淵次官ヲ来訪セル次第ナリ
昭和二年三月五日「ピ」氏暇乞ノ為出淵次官ヲ来訪シ腹藏
ナキ所見ヲ承り度シト述ヘタルニ付次官ヨリ
自分ハ華府會議以來君ヲ知り居リ最近二ヶ年ノ東京在勤中

屢々支那問題等ニ就キ會議シタル間柄ナルニ付今君ノ去ル
ニ当リ全然個人ノ資格ヲ以テ腹藏ナキ所見ヲ述フルコトト
ナスヘシトテ大要左ノ通り会談セリ

(一)日英ノ国交関係 次官ヨリ自分ハ日英ノ国交関係ヲ考
フルニ当リ常ニ「バルフォア」卿カ華府會議ニ於テ日英
同盟ヲ送りタル演説ヲ想ヒ出ササルヲ得ス

当時「バ」卿ノ演説ハ聴ク者ニ頗ル悲痛ナル感ヲ与ヘタ
リ当時列席シ居リタル我日本人ニハ一層此感ヲ深カラシ
メタリ

当時日本国民ハ英国ノ發議ニ依リ日英同盟ノ葬ラレタル
コトニ対シ或種ノ感想ヲ与ヘシメラレ爾来日本人ノ英国
ニ対スル感想ハ同盟存立ノ時ニ比シ幾分変更ヲ来シタル
コト固ヨリ疑ヲ差挿ム余地無シ乍去日英同盟ナルモノハ
如何ニ既往ニ於テ日本ノ立場ヲ擁護スルニ力アリタリヤ
ヲ考フルニ当リ同盟ノ存続セサル今日ニ於テモ日本人ノ
英国人ニ対スル感想自ラ他ノ国民ニ比シ特異ナルモノア